

URBAN-REPORT

<https://www.urbankk.co.jp>

発行人 アーバン企画開発グループ 三戸部 啓之

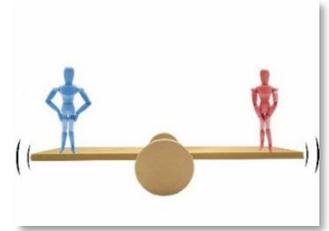
ジェンダーレス社会 × デザイン

リニューアル事業部の沢田です。新卒から入社して3年目、今月で25歳になります。業務内容は、お部屋のデザイン性を高めるリノベーション工事から内装リフォームや外壁工事、エクステリアなどのご提案をさせて頂いております。日々の業務や生活を通して、興味深いことがございましたので、今回ご紹介したいと思います。

はじめに皆様は、「ジェンダーレス社会」という言葉をご存知でしょうか。

《 ジェンダー 》

生物学的な性別に対して、社会的・文化的につくられる性別のことを指します。世の中の男性と女性の役割の違いによって生まれる性別のことです。



たとえば、「料理は女がやるもの」って考えている人いますよね？

料理=女のシゴト。でも男で料理上手もいるのに？「女の子なんだから、ピンクにしなきゃ！」「男の子は、痛くても悲しくても泣いちゃだめ！」この性別がジェンダーです。

《 ジェンダーレス 》

ジェンダーのギャップをなくそうという考え方のことを指しています。

男女の境界線を無くす。 また性別で区別しないこと。

ジェンダーレスの歴史は、1979年に女性差別撤廃条約が国連総会において採択され、世界中に広まっています。日本でも1985年に男女の完全な平等の達成に貢献することを目的として「女性差別撤廃条約」が締結され、翌年1986年には「男女雇用機会均等法」が成立しました。1990年代に入り学校教育でも、「家庭科」という科目が男女の必修科目として変更されています。2000年になると、ハラスメントという言葉が流行し、2015年にはSDGsが掲げられました。「SDGs (エスディージェーズ)」とは、「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称で、国連で決められた国際社会共通の開発目標です。2030年までに達成すべき目標として17の項目を掲げています。その中に「ジェンダー平等を実現しよう」という目標があります。男女の境界を無くす、男女の性差をなくすこと。誰もが性にとらわれず、自らが望む選択をできるようにしようという考え方なのです。

その中でも「ジェンダーレスファッション」は世界でも大変注目されており、目にする事が多くあるかと思えます。例えば、男性のスカートを取り入れたファッションや派手なヘアカラー、ネイルアートなど。一方、女性は、ショートカットのヘアスタイル、傾向としてアーミー系のファッションやライダースジャケットなど男性的なアイテムを取り入れているものが見受けられます。こうした「ジェンダーレスファッション」をしている方は、社会的な性別による暗黙のルールを打ち破って、自身のスタイルを貫いています。性別の枠などを超えて、誰もが「自分のありのままのスタイル」を表現できるようになる。素晴らしい考え方ですね。伝統的な性別認識にとらわれない思考や行動、制度が注目されている今の時代。ジェンダーレスという考え方が浸透してきていることで、男女の区別のない商品が開発されるようになってきたことが分かります。

私自身お部屋のデザインに関しても、男性向け・女性向けという固定概念を持たないように考えていきたいと思えます。本来カラーの好みは、男女の差なく自由でさまざまであるべきですが、私たちの意識の中では小さい頃からの刷り込みの記憶の延長として、多少なりとも男性らしい色、女性らしい色を意識してとらえている場合があるかもしれません。

女の子だからピンク・男の子だから青といったように。たとえ女の子であっても、男の子であっても何が「好き」か、わからない。だったら「ニュートラルカラー」にしよう！

「ニュートラルカラー」というのは、白や黒、グレーといった「彩度の少ない」色のことです。ベージュやアイボリーといった色を含む場合もあります。

シンプルで飽きの来ない「ニュートラルカラー」は、近年人気のミニマルインテリアにもよくみられる、注目の色使いでもあります。ワントーンコーディネートや、モノトーンコーディネートでも、ニュートラルカラーがよく用いられています。

ニュートラルのデザインは、ジェンダーレス社会に対して単に性別を関係なくすること、個性を抑えることではなく、心地よいデザインのために、生活のなかにある違和感に気づき、その本質を解釈することが大切な要素です。

それは「スーツケースが置けるような低い収納を用意する」「調理スペースがあるキッチンにする」「玄関からキッチンが見えないようにする」など、昔ながらの、単に「白い壁」に、「茶色の床」という万人受けするお部屋ではなく、しっかりとしたデータをもとに、時代にあったデザイン（使用方法）も提供することが必要であると考えます。参考例として、当社でデザインしたお部屋のご紹介をいたします。

「ニュートラルカラー」はもちろん、壁のクロスや梁の部分へデザインをするだけでパッと印象が変わると同時に、賃貸物件ならばインターネットへ載せた時の反響もグーンと変わっていくかと思えます。

デザイン例



私も日々生活をしている中で、社会という時代の流れからトレンドまで様々なことに対してアンテナを張り、ひとつひとつの業務を行っています。今回ご紹介させて頂きました【ジェンダーレス社会】という考え方も、その一つです。これまでの男性らしさ・女性らしさという固定概念だけで決めつけるのではなく、お客さま一人一人がどのようなものを求めているのかといったニーズを把握し、それを満たすお部屋作りが出来るように丁寧なアドバイスができるよう心掛けております。

もし、お部屋のデザインや内装・外装工事でお困りの事がありましたら、お気軽にご相談いただきたく存じます。

リニューアル事業部 沢田 麻里亜

参考資料

<https://folk-media.com/2678139>

<https://blo-katsu.com/gender-discrimination-2-1300>